

海と灯台利活用チャレンジ事業 実施事例集

これまでの採択事業から、
2026年度公募の参考となるイベント事例を紹介します

- P 2 御前埼灯台150周年記念 風と灯台フェスティバル
- P 4 薩摩長崎鼻灯台イベント
- P 6 坊ノ岬灯台ウォーク
- P 8 美保関灯台が目覚める朝！岬の物語と灯台モーニング
- P10 演劇「わたしの人生の物語、つづく。」塩屋埼灯台編

※本資料は、各事業の主催団体が実施年度に作成した
成果報告書やイベントレポートを元に、
海と灯台プロジェクト事務局が作成したものです。

御前埼灯台150周年記念 風と灯台フェスティバル

▼参考記事リンク
開催後のイベントレポート

実施目的

御前埼灯台は市のシンボルだが、ほとんどの市民はその存在意義や価値を知らない。周年記念イベントを通じて灯台に足を運ぶきっかけを作り、各種コンテンツを通し、灯台の魅力や存在意義、文化的価値を知っていただく機会を提供する。

実施内容

◎2024年11月10日（日）、御前埼灯台（静岡県）にて、御前埼灯台150周年記念イベント「風と灯台フェスティバル」を開催。来場者は約500名。

【主なプログラム】

- ①御前埼灯台参観 ②御前埼灯台資料館の開放 ③風車づくり（制作・展示）
- ④しゃぼん玉&あわあわお絵描き ⑤灯台150周年メッセージパネルコーナー
- ⑥燈の守り人コスプレ&カレーパン販売 ⑦ドローンで御前埼灯台を見よう
- ⑧マルシェ ⑨クイズラリー ⑩燈光会灯台絵画コンテスト2024 特別賞表彰式



スケジュール

- 7月 関係団体・連携団体との打合せ・調整
イベント実施計画・スケジュール作成
各種申請
- 9月～10月（実施準備）
- ・イベント告知ポスター制作、配布
 - ・イベント関係備品の手配
 - ・運営マニュアル作成、運営の打合せ
- 11月10日 イベント開催
- 11月 事後広報（イベントレポート作成等）
成果報告書、収支計算書等の作成

実施体制

【実施主体】ヒカリテラス御前崎

（構成団体：

一般社団法人御前崎スマイルプロジェクト、
御前崎市、御前崎商工会、御前崎市観光協会、
株式会社フェイス、株式会社富士テレネット）

【協力】燈光会、清水海上保安部、
御前埼灯台を守る会
静岡福祉大学、静岡県立池新田高等学校、
御前崎海鮮なぶら市場、岬の宿八潮 他

事業実施を通じて得られた成果



イベントを通じ連携、思いを新たに

市、観光協会、商工会などや地元企業、海保等が力を合わせ、これまでに無い御前埼灯台イベントを企画・開催し、150周年の節目に灯台への思いを新たにすることができた。



灯台について楽しく学ぶ体験を提供

風を視覚的に感じられる風車を来場者と共に作って灯台周辺に飾り、地域や灯台の役割を学ぶ機会に。クイズラリーでは、ポイントや設問を灯台に関連づけた。



若者に灯台の意義・価値を伝えられた

来場者に加え、高校生・大学生がスタッフとして参加。灯台を詳しく知らない生徒が多かったことから、灯台内部・資料館見学の機会を提供。



150周年記念メッセージパネル制作

来場者から「海の安全をありがとう」「これからも御前埼の未来を照らしてください」等、心のこもったメッセージが集まった。地元の施設に展示し、今後もPRに活用する。

今後の可能性と課題

御前埼灯台150周年の2024年を、新しい魅力づくりを目指すスタートの年に！

本イベントで培われた連携や知見をもとに、来訪者や地元住民に灯台や海との結びつきを実感できる情報や、楽しい時間を提供したい。そのために、語り部の育成、事業の企画、認知度向上に取り組んでいきたい。

▼イベントチラシ



薩摩長崎鼻灯台イベント

▼参考記事リンク
開催後のイベントレポート

実施目的

- ◎賑わいの復活…灯台の魅力や役割を発信し、海の豊かさや環境保全の大切さに触れていただくことで、近年失われつつある地域の活気を取り戻したい。
- ◎子どもへの学びの機会提供…環境保全や海の大切さについて知ってもらう

実施内容

◎2024年11月10日（日）、薩摩長崎鼻灯台（鹿児島県指宿市）周辺にて「薩摩長崎鼻灯台イベント」を開催。来場者数は1,097人。

【主なプログラム】

- ・ 薩摩半島最南端から想いを叫ぶコンテスト
- ・ マルシェ（飲食や物販の販売。海と開聞岳を眺められるテーブル席を用意）
- ・ 鹿児島海上保安部ブース（灯台解説、制服試着 & 記念撮影、灯台ウィーク記念品配布）
- ・ 灯台の特別公開 ・ スポーツごみ拾い
- ・ 灯台 & 星空観察会



スケジュール

8月～10月
事務局会議、関係者会議を重ねて協議
イベント準備や申請、広報等

11月10日 イベント開催
（荒天のため当初予定から一週間延期して開催。
星空観察会は12月8日に実施）

11月～12月
事務局会議・関係者会議でふりかえり
事後広報（イベントレポート作成等）
成果報告書、収支計算書等の作成

実施体制

【実施主体】指宿市観光・経済戦略会議
（構成団体：指宿市、いぶすき観光デザイン、
菜の花商工会）

【連携】 スポGOMI主催 鹿児島銀行
マルシェ統括 菜の花商工会
運営補助 長崎鼻通り会
灯台一般公開 鹿児島海上保安部
星空観察会講師 鹿児島天文協会ほか
駐車場協力 フラワーパークかごしま

事業実施を通じて得られた成果



大人も子どもも、灯台に興味津々！

鹿児島海上保安部による灯台の歴史や役割の解説や、灯台の一般公開が好評。貴重な体験に多くの来場者が集まった。



灯台が立つ場所ならではの地形・ロマンを活かした企画が大盛り上がり

大海原に向かって「ふだん言えない想い+いぶすき大好き」を叫ぶコンテストには、のべ23名が参加し、観客を沸かせた。



マルシェ+絶景が好評

地元事業者や近隣市の事業者が7店舗出店しマルシェを開催した。会場にイスやテーブルを設置したところ「海の絶景を見ながら飲食ができる」と好評だった。



「灯台&星空観察会」で、灯台と星の共通点を紹介

冷え込む時期ではあったが、「土星食」という珍しい現象が発生し、参加者は幻想的な星空に感嘆していた。

今後の可能性と課題

本事業により、この地でのイベント開催の経済効果や誘客効果が分かった。また、来場者の灯台までの動線や、今後の課題（駐車場、会場の配置など）も確認できた。

今後、小規模なマルシェイベントの定期開催や、鹿児島海上保安部と連携した灯台関連イベントの実施について検討していきたい。

▼イベントチラシ



坊ノ岬灯台ウォーク

▼参考記事リンク
開催後のイベントレポート

実施目的

坊ノ岬灯台および周辺の観光価値増大

実施内容

◎2025年11月24日（月祝）、坊ノ岬灯台および坊津（鹿児島県）においてハイキングイベント「坊ノ岬灯台ウォーク」を開催。

日本各地から集まった参加者（34名）は、往復約3キロの道のりを歩き、道中や灯台バルコニーからの海の絶景を堪能。また、講師から歴史・地質・植物などについて学ぶとともに、灯台守やこの地を訪れた人々の物語にふれた。

◎実施に向けては、事前に、灯台や周辺地域に関する解説板・パンフレット作成や、草刈りなどの環境整備などを行った。



スケジュール

7月～11月 事前準備

- ・灯台周辺や、灯台への登山道の草刈り
- ・案内板などの製作、設置
- ・坊ノ岬灯台パンフレット作成
- ・広報（リリース資料をメディア配布）など

11月24日「坊ノ岬灯台ウォーク」実施

11月末～12月

- ・事後広報（イベントレポート作成、発信）
- ・成果報告書、収支計算書等の作成

実施体制

【実施主体】坊ノ岬灯台活用活性化委員会
（幹事社…NPO坊津やまびこ会、
その他構成団体…久志よかとい発信隊）

【協力】

- ・坊津アルプスクラブ（整備、方位板製作）
- ・鹿児島勤労者山岳会（海岸清掃登山）
- ・好日山荘A-RUKU（坊ノ岬古道ツアー）
- ・南さつま市（林道整備）
- ・鹿児島大学名誉教授大木公彦先生（解説板とパンフレットの地質の監修）
- ・園田光代氏（植栽用苗の提供）
- ・東川隆太郎氏、木戸伸栄氏（専門家。当日の解説）

事業実施を通じて得られた成果



事前調査を実施。坊ノ岬灯台および地域についての情報が深まった。

灯台および地域に関する調査や専門家ヒアリングを実施し、灯台・植物・地質・歴史などのより深い情報を得ることができた。



道路および周辺の環境整備。 灯台への一般の方の散策が可能に。

草が生い茂り、散策が困難だったため、道の草を刈り、滑りやすい箇所にロープを設置し、安全に歩けるようにした。



解説板、案内板、パンフを作成。灯台や周辺の自然等への理解が容易に。

調査成果を元に、案内板、方位板、ルート標識を設置。また、A4サイズ4ページ版のパンフレットを作成。



広報、イベント運営で灯台をPR

広報により、定員の2倍以上の申し込みが。当日は講師らが、灯台の歴史・役割の変遷等について語り、参加者・関係者ともに坊ノ岬灯台の重要性を再認識しできた。

今後について

本事業を通じ、関係者の知見・経験と連携が深まり、さらに取り組む機運が醸成できた。

コンソーシアム構成団体を中心に、今後、以下に取り組んでいく。

- ◎案内板やパンフレットは、継続して活用。
- ◎灯台への登山道は、本事業費での購入備品も活用しつつ、継続して整備。
- ◎灯台ガイド散策ツアーや灯台の内部開放は、今後も、企画開催。



美保関灯台が目覚める朝！岬の物語と灯台モーニング

▼参考記事リンク
開催後のイベントレポート

実施目的

- ・美保関灯台への誘客促進、エリア滞在時間の延長
- ・旧灯台官舎レストランの課題解決（後継者探し）
- ・美保関灯台の「語り部」育成

実施内容

◎2025年10月26日（日）朝、美保関灯台および周辺（島根県）にて、灯台と周辺名所めぐりツアーと、サンドイッチ&コーヒーの朝食を提供するイベント「美保関灯台が目覚める朝！岬の物語と灯台モーニング」を開催。
参加人数：49人（主に島根県と鳥取県、ほか神奈川県、福岡県、岡山県）

◎活用されていなかった「朝」の時間帯を活用し、灯台の新たな価値を創出するために、ジオガイドや地元飲食店と連携。アンケートで参加者の声を収集した。



スケジュール

- 5～9月 実施内容調整、コンソーシアムにて会議
- 9月～ 参加者募集開始
（HP&イベント・コミュニティプラットフォームPeatixで受付）
広報（リリース資料作成・発信、SNSによる発信、テレビCM、チラシ作成・配布、松江市報による発信）
開催に向けた準備
- 10月26日 イベント開催
- 11月 事後広報（イベントレポート作成等）
成果報告書、収支計算書等の作成

実施体制

【実施主体】美保関灯台利活用コンソーシアム
（幹事社…山陰中央テレビジョン放送
その他構成団体
…松江観光協会美保関支部、松江市）

- 運営：美保関灯台利活用コンソーシアム
- ガイド：出雲国ジオガイドの会
- ドリンク提供：カナリヤコーヒー
- サンドイッチ監修：チャップリン・ジョブリン
- 灯台参観：境海上保安部、松江市
- 食事会場：灯台ビュッフェ&ガーデン

事業実施を通じて得られた成果



灯台の「朝」需要を確信

募集開始2週間で50人枠が満枠に。灯台と言えば夜のイメージだったが、朝の需要があることが分かったことが最大の収穫。洋式灯台と洋風メニューの相性も良く、好評を博した。



海保・市の協力により灯台参観と連携

境海上保安部と松江市の協力を得て、灯台内部参観を実施。イベント参加者に貴重な体験を提供できた。また、参観のみの当日受付も行い、老若男女約350人が訪れた。



美保関灯台周辺は歴史の宝庫！

ガイドツアーでその価値を再認識

灯台に地元の特異な石材が使われていることや、建設経緯、戦争との関わり、神祕的思想など、幅広い文化歴史を伝えられた。



アンケートで参考意見を収集

イベント参加者および灯台参観来場者、のべ480名からアンケートを収集。7割以上から次回イベントへの参加意向を伺えたとともに、今後の参考となる意見をヒアリングできた。

今後の可能性と課題

本イベントの開催により、灯台での“朝活”に需要があることがわかった。他エリアからも問い合わせを頂くなど、同様の施策の横展開に期待できる成果となった。

ただし、自走化には料金設定の改定など、課題が残る。今回は参加費を1,000円と設定したが、3,000円以上を設定しないと赤字にはならない。

また航路標識協力団体など、年間を通じて美保関灯台や旧灯台官舎を活用する団体の育成には大きな課題があることを改めて認識した。

今回のような単発のイベント企画を通じて、美保関灯台の利活用に前向きな人たちを掘り起こしていきたい。



演劇「わたしの人生の物語、つづく。」塩屋埼灯台編

▼参考記事リンク
開催後のイベントレポート

実施目的

いわき市を拠点に活動する「いわき演劇クラブ」は、市内の様々な地域を訪れ、そこで暮らす人々からインタビューを通じて“人生の物語”を受け取り、演劇作品を創作する事業「劇団ごきげんよう」を実施している。その公演を市民有志の「とよまの灯台倶楽部」メンバーが観劇したことから、本コンソーシアムを結成。灯台を守り続けてきた人たちや、その思いを受け継いでいる人たちの物語を演劇に昇華して発信し、後世に残すことを目的に、本事業を企画した。

実施内容

- ◎2026年7月13日（日）演劇公演を上演（午前・午後の2回）。
- ◎公演に先立ち、灯台にまつわる市民へのインタビュー、オリジナル台本の作成、参加者募集、演劇講座を実施。
- ◎公演後は、動画をYouTubeで公開した他、DVDを市内の施設に寄贈した。



スケジュール

- ～6月 インタビュー、台本作成
参加者募集、稽古開始
広報（チラシ作成）
その他準備、打合せ等
- 7月7日～12日 演劇講座実施
- 7月13日 演劇公演 上演
- 7月～8月 映像・DVD作成
- 9月 YouTube公開
事後広報（イベントレポート作成・発信）

実施体制

【実施主体】

塩屋埼灯台活性化プロジェクト実行委員会
（構成団体：
いわき演劇クラブ、とよまの灯台倶楽部）

【連携】

演出 永山智行氏（劇団こぶく劇場）

事業実施を通じて得られた成果



灯台を守る人々、灯台と共に生きる人々の物語を、市民が演劇に昇華

灯台に住み込んで光を守った人たちや、現代に至ってその思いを受け継ぎ、大事に思う人たちにお話を聞かせていただき、演劇作品をつくりあげることができた。



上演後の意見交換タイムで、演者と来場者が灯台について熱く語り合えた

子どもから大人までが出演した本作を通じ、幅広い世代が共感。活発な意見が交わされた。



プロ演出家の指導でクオリティの高い演劇に。鑑賞者からも大好評

上演後、鑑賞者から「こんな素敵な演劇になって塩屋埼灯台も喜んでいると感じる」「灯台に登りたい。今までと違った印象を受けそう」と好評の声を多数いただいた。



来場者とのぼりを作成、灯台に掲揚

魚のぼりにメッセージを書いていたが、灯台や資料館に飾った。灯台への誘客、愛着UP、話題づくりにつなげた。

今後について

演劇ダイジェスト&出演者インタビュー映像を作成し、YouTubeで公開したほか、イベントレポートを作成してPRTIMESで発信した。また、DVDを作成し、いわき震災伝承みらい館・豊間中央集会所に寄贈した。今後もこれらを、灯台の物語を伝えるツールとして活用していく。

▼演劇公演チラシ

